

病 院 だ よ り

人工膝関節センターの開設について

野村 栄貴

しびれを感じたら

飯田 秀夫

安静度表を活用しながら

三堀いずみ

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



人工膝関節センターの開設について

平成22年4月より国際親善総合病院に人工膝関節センターを開設致します。当人工膝関節センターは、人工関節の中でも膝関節に特化し、より専門的で最新・最先端の治療法を患者さんに提供することを目的に設立されました。

現在の人工膝関節は世界的に表面置換型が用いられており、このタイプは関節の自由度が高いため負荷が逃げる構造で人工関節の耐用年数を飛躍的に改善しました。現在の標準的材質は、大腿骨コンポーネントがコバルトクロム合金、脛骨側はチタン合金で出来ており、それらの間にポリエチレンサーフェイスを挿入します。膝蓋骨コンポーネントは関節の状態により決定します。手術時間は1時間～1時間30分程度で出来ます。皮膚切開の長さはM I S（最小手術侵襲）で9～11cm程度で可能で、従来の15～20cmの半分近くになっております。術後は硬膜外麻酔を併用することにより痛みは1/3位に軽減します。手術翌日から歩行練習と膝の屈曲練習を開始します。早い方は術後2日目に90度の曲がりが見られます。術後14日目に120-130度の屈曲が見られ、杖なしで歩行でき、術後15日～21日の間で退院が可能になります。現在は術後2週間で退院を目標としています。術後は130～140度（正座は155度）の曲がりが見られます。現在の

人工関節の耐用年数は20年以上あります。術後は杖は全く不要で、マラソンなどの走ることは無理としてもゴルフ、ボーリング、日本舞踊、ハイキングなど問題なく可能となります。膝の変形・リウマチで注射・リハビリ・内服治療などを毎週のように通院しても1～2週で痛みが戻ってくるような状況では人工膝関節手術を第1にお薦めします。

患者さんのより良いライフスタイルに寄与できるよう努力して参ります。

人工膝関節センター
センター長 野村 栄貴



平成22年4月より
人工膝関節センター

健康懇話会



しびれを感じたら



“しびれ”とは、何でしょうか？

一般的に皆さまは“しびれ”というと、フグ中毒の時、“フグを食べて、しびれた”などがよく言われる言葉だと思えます。神経学的には、しびれのうち、正座した後、足がじりじりした感じ、触って鈍い感じ、これは知覚障害を意味します。一方 正座した後、足がうまく動かなくなった状態、力が入らない状態、これは運動障害を意味します。

このような運動・知覚障害を起こすものは、頭(脳)から足の先(末梢神経)までいろいろなところの神経の障害で起こります。脳では、脳出血・脳梗塞などの脳卒中によるもので多く生じます。脊髄では頸椎症・腰椎椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症、末梢神経では、手根管症候群・肘部管症候群などがあります。各々で知覚障害の範囲、運動障害の範囲が異なります。脊髄末梢神経障害の治療は薬物療法・症状がひどい場合、手術療法が選択されます。脳卒中は、突然襲ってくる病気であり、出血・梗塞の脳での範囲がどれぐらいかで、後遺症の程度が決まってきました。しかし、高血圧など、脳卒中は脳卒中になりやすい危険因子が明らかになりつつあります。この危険因子をなくすように努力することにより、ある程度脳卒中は予防できるものと思われれます。

平成22年5月健康懇話会では、しびれを起こす病気について説明し、どの専門家へ受診したらよいかの受診の仕方をお話し、しびれを感じないように、脳卒中予防のための危険因子の治療および頸椎症・脊柱管狭窄症などによりしびれを生じても症状を増悪しないような日常生活の工夫について述べたいと思います。

副 院 長
脳神経外科部長 飯田 秀夫

ご 案 内

このテーマは

平成22年5月14日(金) 15:00~約1時間の健康懇話にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

患者さんとの情報共有

安静度表を活用しながら

皆さまこんにちは、3B病棟は脳神経外科と整形外科の混合病棟です。



脳神経外科は、主にくも膜下出血や脳出血などの患者さんが入院しています。生命にかかわる重要な時期を乗り越えられた方たちを集中治療室から迎え入れ、少しでも元の生活に戻れるよう、食事・排泄・清潔などの日常生活をお手伝いしています。スタッフたちは毎日忙しく走り回っていますが、声を掛けあい協力しながら、楽しく看護をしています。

整形外科は骨折や関節の変形、神経の圧迫などによる、膝・腰の痛みやしびれ・動きにくさなどがある患者さんが多く、これらの病気の治療として、主に手術を受ける方が多いため、安心して手術が受けられるように準備をし、手術後の回復がスムーズにいくよう、理学療法士とも協力してリハビリテーションのお手伝いをしています。

また回復の程度により、看護師がそばで見守りながらの歩行、または自立歩行ができるなどと安静度が患者さんにより違います。日々変わる安静度が患者さんやスタッフに伝わるように、ベッドの横に安静度表をより分かりやすくリニューアルして表示することとしました。

この表を見て患者さん・スタッフともに協力し、安心してリハビリテーションに取り組めるようお手伝いしていきます。

3B病棟課長
三堀 いずみ

様  

患者様には入院生活上、以下の注意事項があります
(シールがついている所)

《安静度》 () 度まで

ベッド上 荷重 可能 不可能

車椅子 足台 なし あり

歩行 歩行器 固定式歩行器

松葉杖 杖 フリーハンド

【条件】 見守り フリー 終日

日中のみ 夜間のみ 院内

トイレまで 病棟内 座位

装具着脱 臥位 座位

《食事》

制限はありません

制限食のため持ち込みはできません

血糖測定 なし あり

《排泄》

尿量測定 なし あり

器械 一回量のみ

★病状により随時変更致します

3B病棟 